

ご自由にお持ち帰りください

さくらだより



さくら病院

SAKURA

日本医療機能評価機構認定



健・康・通・信

さくら病院の理念

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。

Vol. 51



2内科病棟師長
吉田 さち代

2内科病棟が回復期リハビリテーション病棟から地域包括ケア病棟へ変更するにあたり平成27年1月より2内科病棟に異動しました。2内科病棟が地域包括ケア病棟となり、半年が経とうとしています。1ヶ月に30名以上の患者さんが入院、退院され、ご家族も合わせ多くの方と出会うことができました。住み慣れた家を離れ入院生活というストレスを抱えながらも、明るく前向きに治療に専念し退院していかれる患者さん。痛みや寂しさから気分が落ち込む患者さんを毎日面会し、寄り添われるご家族の方。私が新人ナースだった頃、先輩ナースに患者さんの人生を「病院にはテレビ以上のドラマがあるね」と言われたことがあります。今でも時々この言葉を思い出します。

2内科病棟では「優しい看護」を目指しています。患者さん、ご家族が安心して療養できるように安全で信頼される看護、苦痛のない療養ができるよう患者さんに寄り添い患者さんを尊重した看護を心掛けています。そして、医師、MSW、リハビリスタッフ等と協働し、患者さんやご家族が満足される退院支援を行っています。

これからも「さくら病院に来てよかった」と思ってもらえるようスタッフ一丸となって「優しい看護」を実践していきたいと思っています。

新任ごあいさつ



医師 崎原 永志

はじめまして。4月よりさくら病院で勤務させていただいております崎原永志(さきはらえいし)と申します。出身は沖縄県浦添市で、平成22年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院で2年間研修を受け、福岡大学病院総合診療部に入局し、勤務しておりました。この度プライマリーケア医学会の家庭専門医を取るべく、在宅・地域医療を勉強するため、さくら病院で勤務させていただいております。

さくら病院では病棟、外来、在宅、救急当直、腹部・心エコー検査など幅広く勉強させてもらっています。

2か月が経過しておりますが、大学病院と違いさまざまな疾患のかたが来られるので戸惑うことが多く、院長先生や医局の先生、病棟・外来看護師、スタッフをはじめ、周りの方々に迷惑をかけ申し訳ないのですが、なんとか支えられながら勉強させてもらっております。6か月との短い期間ではありますが、しっかりと勉強したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2014/
12月
10日(水)

いきいき公開セミナー

テーマ:「訪問診療について」

外来 山下 佳代

今回はさくら病院の外来紹介から訪問診療、往診についてお話をさせていただきました。外来通院では、定期的に担当医師の診察や検査を受け、薬の処方をされています。又、風邪や急に足腰が痛くなくても病院を受診することになります。でも「調子が悪く病院に行きたいけど行けない」「定期的な病院への受診ができない」など、病院に行けなくて困った時は、さくら病院の外来へ相談してください。さくら病院は訪問診療、往診をしています。訪問診療の担当医師4名と担当看護師3名で対応しています。訪問診療は月曜日から金曜日の14時～17時にお宅へ訪問します。また病気の具合により直ぐに診察が必要な場合、月曜日から金曜日は9時～13時に往診もしています。受診や病気のこと、介護についてお困りのことがありましたら、外来看護師へ相談してください。私たち外来看護師は患者様、家族が安心して在宅で過ごせる様に支援していきたいと思っています。



2015/
2月
18日(水)

いきいき公開セミナー

テーマ:「生活習慣病予防の為の健康診断」

医事課受付 林田 華佳

今回は当院で行っている主な健康診断についてお話をさせていただきました。当院では福岡市が行っているよかドックや胃癌・大腸癌・前立腺癌検診をはじめ、日帰り人間ドック・脳ドックなど様々な健康診断を受ける事が出来ます。よかドックは500円で受ける事ができ、予約も不要です。

また、昨年からがんであるリスクを評価する「AICS(アミノインデックス)」や将来の脳梗塞・心筋梗塞のリスクを判定する「Lox-index」という検査も始めました。

生活習慣病は長い年月の間に徐々に進行し、発病すると完治することが極めて困難な病気です。早期発見・早期治療が重要となります。定期的に健康診断を受け、毎日の生活のしかたや習慣を見直してみたいはいかがでしょうか？



2015/
4月
14日(火)

いきいき公開セミナー

テーマ:「診療放射線技師と画像検査」

診療放射線科 中島 孝一

診療放射線技師とは医師、歯科医師の指示の下に、放射線を人体に対して照射することを業とする(診療放射線技師法)医療従事者です。それ以外でもMRI、超音波、散瞳薬を使用しない眼底写真の検査が認められています。さくら病院では、X線一般撮影、X線ポータブル撮影、CT、MRI、骨塩定量、透視検査補助を行っています。

検査を行う際、誤診・見逃しの防止のため金属や固いものをはずしてもらいます。一般撮影では撮影する部位に固いものがある場合、CTでは撮影する部位に金属がある場合、MRIでは部位にかかわらず金属すべてです。セミナーでははずさなかった場合の画像について説明しました。



第17回 さくらフォーラム開催



色とりどりの紫陽花が雨にぬれて映える梅雨の季節の中、「第17回さくらフォーラム」が、今年も7月1日(水)にソラリア西鉄ホテルにて開催されました。日頃より病病連携・病診連携でご協力を頂いています近隣医療機関・介護施設の先生方や地域医療連携室の方々に今回も多数ご参加いただきました。

まず始めにさくら病院の活動報告、医局員・看護部の紹介、その後特別講演として、福岡大学医学部 腫瘍・血液・感染症内科学教授 高松 泰先生より「日常診療でみる血液疾患」のご講演をしていただきました。

講演会後は懇親会・情報交換会の場を設け、普段なかなかゆっくりとお話をする機会がない連携先の方々との

交流を深める事が出来、大変充実したものとなりました。高齢化が進む中、地域の方々に安心安全な医療・介護を提供する為には、病院・診療所・介護施設の連携が大変重要です。このさくらフォーラムが連携強化のひとつとなる様、これからも取り組んでいきたいと思ひます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。今回もご多忙の中、たくさんの方にご参加・ご協力いただき有難うございました。



第1回 さくら交流会

当院では患者さん・ご家族が地域の中で安心して療養や生活が送れるように、昨年より近隣のケアマネジャーさんや施設の方々とのより良い地域連携をめざした多職種による交流会を開催しています。今回は当院から患者様が入所された施設や当院に入院された施設の方などをお招きしました。参加された施設の方(特養・老健・グループホーム・介護付有料老人ホーム・サービス付高齢者住宅・住宅型有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護・城南区保健福祉センター職員)24名と当院スタッフ(看護師・介護士・理学療法士・事務職員、MSW)21名計45名が7つのグループに分かれて話し合いを行いました。話し合いの中から入院時の身元引受人欄の記入の件や緊急時の受入れについての質問や退院して入所する時の看護要約をなるべく介護のスタッフにも理解

開催日時 2015年7月15日 18:30~19:45

場所 さくら病院リハビリテーション室

できるような言葉で書いてほしいなど具体的な要望を伺うことができました。予定した時間では足りない程活発な話し合いが続きました。

今回の交流を機会としてさらにスムーズな連携をめざしていきたいと思います。



日本消化器内視鏡学会認定指導施設

指導医 副院長 王寺 恒治

当院は平成16年12月に日本消化器内視鏡学会より指導施設に認定されました。その当時基幹病院以外で指導施設に認定された病院はかなり数が少ない状況でした。

指導施設に認定される基準は、①内視鏡室が設置されていること②専門医の教育に必要な各種内視鏡機器を備えていること③週間検査件数が充分であること④指導医1名以上が勤務、専門医2名以上が常勤し、十分な教育体制がとれていること⑤内視鏡検査室専属のコメディカルスタッフがいること⑥病理部門が独立して存在するか、または病理診断を依頼することができる病理専門施設が定まっていること（当院の病理診断は福岡市医師会臨床検査センターに依頼）。

以上の厳しい認定基準を全てクリアし初めて内視鏡学会の指導施設に認定されます。とくに指導医の資格を得るためには、専門医の資格を取得した後、3年以上指導施設またはこれに準じる施設において消化器内視鏡による診療に従事し、学術論文をふくめた業績目録も必要です。

当院の指導医は小生。専門医は常勤医では、江頭啓介先生、江頭芳樹先生、知念正明先生、天野角哉先生、江頭一成先生、古屋陽子先生、そして小生の計7名です。現在、天野先生が指導医の資格を得るための準備を行っています。また、内視鏡検査室専属のコメディカルスタッフ（内視鏡技師）は、看護師の高橋光子さん、末森美妃さん、中村久美子さんの計3名です。内視鏡技師の活躍で内視鏡スコープの洗浄と消毒、そしてメンテナンスは完璧に行われています。152床の小規模な当院は病床数の割合から見ると専門医の数はかなり多く、消化器病疾患の診断と治療が充実した病院です。

指導医を維持するためには、学会への複数回出席、学会主催のセミナーおよび重点卒後教育セミナーの出席は必須です。また、指導施設を維持するために、5年に1回研修のための教育計画書を含めた各種申請書類を提出する必要があります。

当院は月曜～土曜日まで毎日上部消化管および下部消化管内視鏡検査を行っており、内視鏡手術（ポリペクトミー、EMR）、内視鏡止血術、胃瘻造設術、異物除去、内視鏡拡張術も実施しています。

内視鏡学会指導施設として、専門医の育成ならびに地域医療に充分貢献できているものと自負しています。当院で内視鏡検査治療のトレーニングを続けられた、藤見寛子先生、知念正明先生、古屋陽子先生、川久保尚徳先生計4人の医師が無事に専門医試験に合格されています。

今後も安全で精度の高い診断と治療を地域の人々に提供し、信頼される指導施設を維持発展させるために、内視鏡に携わる全員が日々努力していく覚悟です。

部署紹介

栄養科

こんにちは、栄養科です。栄養科は現在3名で業務を行っています。

業務内容としては、入院患者様へ安心・安全な食事の提供や、入院・外来患者様への栄養食事指導です。

ご入院されたらまず病室を訪問し、患者様の状態の確認を行ない、一人ひとりに合わせた食事を、他職種のスタッフと連携を取りながら提供しています。食事の中には、食欲低下や、嚥下障害、緩和ケアなどにも対応できる様々な内容もご用意し、患者様の栄養状態の維持・向上に努めています。

入院・外来患者様への栄養食事指導は、ご自身の食事内容を見直して頂く事へのご理解や、ライフスタイルを考慮した栄養指導を行っています。

お食事は、ただ空腹が満たされれば良いものではありません。美味しく、楽しくはもちろんですが、「ココロ」の

支えでありたいと考えています。

入院から在宅まで、食環境に関わる問題は高齢化も含め多種多様であり、入院患者様・地域の方々一人ひとりへ、栄養のプロとして疾病治療・疾病予防、健康増進活動を他職種と連携を取り合いながらサポートが出来るよう全力を尽くしていきたいと思っております。



通所
リハビリ

春のバスハイク ～福岡市植物園で季節を楽しむ～

さまざまな花が咲き誇り、見ごろを迎える季節に通所リハビリでは、恒例のバスハイク行事で福岡市植物園に行っていました。

リンカーン、エリザベス、ジョナサン、マリリン・・・、これらの名前が何か分かりますでしょうか？答えは薔薇の名前です。バスハイクに行ったゴールデンウィーク明けはバラが見ごろで、バラ園では250種類1100株のバラが一面に咲き誇っていました。

参加された方はバラで作られたアーチ、一步進むごとに色や形が変わるバラ、そして体と心を癒してくれるような花の香りに、時間や疲れを忘れて思い思いに散策を楽しまれました。通所リハビリに戻れると「きれいでした!!」「疲れたけど行ってよかった」「バラがすごかった！」など、参加された方がなかば興奮気味に話されているのが印象的でした。

福岡市植物園には、バラ園のほかに熱帯植物が見られる大温室、花壇、花木園、野草園など2600種類19万本の植物が展示されており、季節を感じながら楽しむことができます。ちなみにバラ園の見ごろは5月初旬から下旬だそうです。



～いろいろな所に行っています～

通所リハビリでは、行事として春と秋にバスハイクを行っています。バスハイクの目的の一つに「日頃行かないようなところに出かけよう!」というのがあります。これまでバスハイクで行ったところは、アサヒビール工場、櫛田神社、福岡市美術館、九州国立博物館、福太郎明太子工場、福岡市防災センター、平尾にある日本庭園松風園などです。長歩きなど体力に自信がない方、車椅子の方、トイレが心配な方でも、安心して楽しめるように事前に下見をして、スタッフが対応しますので通所リハビリに来られている方なら、ほとんどどなたでも安心して参加いただいています。

さくら病院内にある通所リハビリのご利用に関心のある方はご遠慮なく、お声掛けください。ご利用に関する説明や利用体験は随時おこなっております。

さくら
ユニット院外イベント
友泉亭公園

5月20日(水曜日)、天候にも恵まれ、患者様、そしてご家族と共に待ちに待った友泉亭公園に出掛けました。友泉亭公園に着くと、皆さん自然を間近で感じ開放感からか、表情が一気に和らいでいました。皆さんと池の周囲を巡りながら散策し、その景色を色々な角度から楽しみ、きれいな庭や池を眺めながら季節のお菓子付の抹茶も頂きました。その時の患者様の幸せそうな顔を見て、ご家族もとても喜ばれていました。私たちもほっこりしました。

入院中は、なかなか自然と触れ合い生活することが困難な中、このようなイベントで日頃感じる事の出来ない自然との触れ合いを大切に今後も患者様、ご家族に満足して頂けるようなイベントを企画し提供していきたいと思います。



こんにちは!

医療連携相談室です。 どうぞお気軽にご相談ください。

医療連携相談室では、患者様・ご家族からの様々なご相談を承っています。

例えば、当院への入院のご相談・退院後の生活に対する不安・介護サービス等社会資源のご紹介・経済的な問題についてなど、一緒に考えさせていただきます。

また、患者様へ適切な医療が提供できるよう、地域の診療所や病院・施設・在宅サービス事業所等との連携に努めています。

どうぞお気軽にお声かけください。

医療連携相談室

TEL 092-801-7386 (事務課)

FAX 092-864-1213

担当者 医療連携相談室長

楠原浩之

医療ソーシャルワーカー

小川美和・松山章子・橋迫千佳



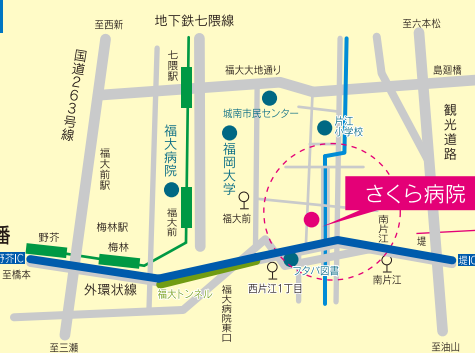
相談受付 平 日:午前9:00~午後5:00
土曜日:午前9:00~午後12:30

外 来 診 察 表

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	第1診察室	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科
	第2診察室	楠原 消化器科(肝臓)/内科	王寺 胃腸科/内科	秋満 循環器/内科	西本 総合診療科/内科	王寺 胃腸科/内科	楠原 消化器科(肝臓)/内科
	第3診察室	堀端 消化器科/内科	村上 心療内科/内科	天野 胃腸科/内科	天野 胃腸科/内科	古屋 消化器科/内科	井手 糖尿病内科/内科
	第5診察室		熊谷 循環器内科	岩崎 リハビリ・整形外科			崎原 総合診療科
午後	第1診察室	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	林 神経内科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	
	第2診察室	秋満 循環器/内科	西本 総合診療科/内科	王寺 胃腸科/内科	楠原 緩和ケア/内科	秋満 循環器/内科	
	第3診察室	村上 心療内科/内科	知念 胃腸科/内科	佐々木(靖) 循環器(隔週)	早田 内科消化器科(肝臓)	知念 胃腸科/内科	
	第5診察室	古屋 消化器科/内科		内藤 血液・腫瘍/内科	崎原 総合診療科	中園/乙成 心療内科/内科	
専門外来(予約制)	午前		村上 心療内科 熊谷 循環器	岩崎 リハビリ外来		渡辺 呼吸器内科外来	井手 糖尿病外来
	午後	川添 神経内科 村上 心療内科		内藤 血液・腫瘍外来 佐々木(靖) 循環器外来	楠原 緩和ケア外来 早田 肝臓外来	安部 脳神経外科 中園/乙成 心療内科	

病院までの交通アクセス

- 地下鉄七隈線
(福大前下車、1番出口より徒歩10分)
- バス(西鉄バス西片江1丁目バス停下車)
西鉄バス系統番号
(天神方面より) 12,13,14,61,114,140番
(西新・飯倉方面より) 95番
(博多駅方面より) 12,13,16,18,64,114,140番
(松原・片江方面より) 6,12,13,14,16,18,61,64,95番
- 車(病院裏手に専用駐車場があります)
天神より約30分・堤ICより約5分



医療法人社団 江頭会 さくら病院 在宅医療介護センターさくら
社会福祉法人 桜花会 ライフケア大手門
社会福祉法人 桜花会 特別養護老人ホーム ライフケアしかた
社会福祉法人 桜花会 ライフケア柏原
高齢者安心ハウス あっとほーむ片江

〒814-0142 福岡市城南区片江4丁目16-15

TEL092-864-1212 FAX092-865-4570 E-mail:info@sakurahp.or.jp

ホームページ: <http://www.sakurahp.or.jp/> (2月ホームページをリニューアルいたしました)

直通TEL

事務所 092-801-7386
ユニット 092-872-5615

1内科 092-872-5611
2内科 092-872-5612
3内科 092-872-5613